

# アンレバー・リレバーに用いる 資本構成比に関する論点

平成28年11月9日

事務局

- アンレバー・リレバーの資本構成比を求める財務諸表と純資産の額については、連結財務諸表・時価総額か、単体財務諸表・簿価とが考えられるが、いずれを用いるべきか。

用いる財務諸表	連結財務諸表	単体財務諸表
着目する事業体	グループ全体	移動通信事業会社単体
財務諸表の利用可能性	上場企業のみ	二種指定設備設置事業者は 接続会計として整理・公表義務
純資産の額	時価総額	簿価
利用可能性	上場企業のみ	二種指定設備設置事業者は 接続会計として整理・公表義務

## 論点

- 連結財務諸表・時価総額は、上場企業のみで利用可能であり、非上場企業の二種指定設備設置事業者では単体財務諸表・簿価を用いることとなる。連結財務諸表・時価総額を原則とした場合、アンレバー・リレバーにおいて、連結財務諸表・時価総額と単体財務諸表・簿価とが混在することについて、整合性をどう考えるか。
- リレバーは、移動通信事業会社単体の財務リスクを考慮すべきものであるため、単体財務諸表・簿価を用いるべきであると考えてよいか。その場合、アンレバーで用いる財務諸表・純資産の額との整合性をどのように考えるか。

# (参考) 各社の資本構成比の比較 (2014年度期首末平均)

		NTTドコモ		KDDI		ソフトバンク	
		連結・時価	単体・簿価	連結・時価	単体・簿価	連結・時価	単体・簿価
有利子負債 (百万円)		226,499	221,006	1,006,831	683,318		748,471
純有利子負債 (百万円)		0	165,261	763,686	625,434		698,136
純資産 (時価総額or簿価) (百万円)		7,422,880	5,319,921	5,902,256	2,832,921		1,788,327
時価総額	D/Eレシオ	0.000	0.031	0.129	0.221		0.390
	アンレバードβ	0.601	0.589				
	リレバードβ	<u>0.601</u>		<u>0.651</u>	<u>0.673</u>	<u>0.752</u>	<u>0.737</u>

## 算定条件

- 元の株価β：NTTドコモの2014年度末から3年間遡り、日次で算定したβ (0.601)
- 資本構成比：資産、負債、純資産 (時価総額or簿価) については2014年度の期首末平均を使用
- 有利子負債：社債、借入金及びリース債務に対応する勘定科目を使用
- 純有利子負債：有利子負債から現金及び預金を減算 (結果がマイナスとなる場合はゼロ)
- 時価総額：期末の発行済株式数から自己保有分を除いたものに期末の株価を乗じて算定
- D/Eレシオ：純有利子負債の額を純資産の額で除算
- アンレバード・リレバードの方法： $\beta_A = \frac{E}{(1-T)D+E} \beta_E$  ( $\beta_A$ ：アンレバードβ、 $D$ ：純有利子負債 (マイナスの場合はゼロ)、 $E$ ：純資産、 $T$ ：実効税率、 $\beta_E$ ：株価のβ)
- ソフトバンクの「連結・時価」の場合については、リレバード時のソフトバンクの資本構成比については単体財務諸表・簿価を使用